

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-2-2	虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている
タイトル①	委員会活動や職員会議での取り組みを通して虐待防止に努めている	
内容①	法人の定める「行動規範」「倫理綱領」を事業所内に掲示しており、職員間で虐待防止ガイドラインの読み合わせを行っている。事業所では、虐待について「支援の質の低下の延長線上にある」と考えており、虐待防止に向けて委員会を設置して定期的に自己チェックを行い、法人内の虐待防止研修、人権研修への参加も行っている。今年度の職員会議では「不適切な支援について」をテーマに「利用者への声掛けが強制的な指導になっていないか」「結果として不適切な支援ではなかったか」など、より実践的な内容の話し合いを行い、虐待防止に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル②	ホームページのシステムを一新し、日々の活動の様子をタイムリーに発信している	
内容②	事業所広報誌「ゆりかもめ」を年3回発行し、季節行事などの活動内容のほか、広報担当の利用者と職員が企画する「みんなのページ」に利用者や新入職員へのインタビュー記事載せるなど、利用者が主体的に活動している様子が伝わるよう工夫している。事業所のホームページでは、「ゆりかもめ」に加え、写真を中心とした「きね川日記」を毎月掲載し、事業所情報とともに利用者の生き生きとした表情を伝えている。令和3年からホームページのシステムをスマートフォンでも見やすい仕様に変更し、タイムリーな情報発信に取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-12	【就労継続支援B型】就労の機会の提供や、知識の習得及び能力向上のための支援を行っている
タイトル③	「満点ランキング」で一日の頑張りを見える化し、利用者のやる気向上に結び付けている	
内容③	事業所では、定期的に作業への参加度合いと実績を詳細な項目に分けて数値化し、評価を行っている。結果は利用者と家族に共有するとともに、結果を工賃に反映させ、作業に取り組むモチベーションの向上につながっている。今年度は、このような作業評価に加えて「満点ランキング」を開始し、利用者が「頑張って取り組んだ」という姿勢を毎日評価して掲示板にシールを貼ることで、個々の能力だけではなく取り組み姿勢も評価対象として目に見えることで利用者の喜びにつながり、「今日も頑張ろう」と前向きに作業に参加できる雰囲気づくりを心掛けている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	フロア合同の支援体制により、事業所全体としてより良い支援について考え、利用者の潜在的な力を見つける意識が培われている
	内容	1階と2階に作業スペースが分かれていることから、従来は利用者の所属と職員の支援体制はフロア毎に行われていたが、近年はフロア合同での支援体制をとり、情報共有と意見交換を行うほか、利用者も行き来ができるようにした。利用者は「2階で働けるよう頑張りたい」との目標を持つことができるようになり、潜在的な能力を発見し引き出して育てることに繋がったほか、支援体制としてもフロアの垣根を越え職員全体で利用者を見守ることで、各職員の経験を分かち合いながら多様な視点から検討を行い、より良い支援方法を組み立てる意識が培われている。
2	タイトル	利用者が役割を持てる機会や、自治活動をサポートし、「楽しい職場を自分たちで作る」という意識を育てている
	内容	事業所では、「自己選択・自己決定」を事業運営の柱の一つとし、行事の実行委員や広報誌の編集など、事業の中に利用者が活躍できる役割を設け、主体性が引き出されるよう取り組んでいる。また利用者の自治的活動を積極的に推進し、月1回全員が参加する「タウンミーティング」では、職員は誘導せず見守り、利用者が自由に議論を行っている。毎年選挙で決められる利用者代表選に今年度は10名以上が立候補しており、利用者の中に「楽しく働ける場を自分たちが作る」という意識が根付き、役割を通じて生きがいを感じる取り組みとなっている。
3	タイトル	事業所の抱える重点課題を「事業業務一覧」にまとめ、具体的な取り組み方法を明示して職員周知を図っている
	内容	事業所では年度ごとに「事業課題一覧」を作成して、「事業骨子」「収支」「実務業務」「地域交流・社会貢献」「施設の弱み改善」の視点から事業所の抱える重要課題をまとめ、職員周知を図っている。また、第三者評価や外部機関のコンプライアンス調査などの結果も参考に新たな課題や改善点を集約し「前年度の反省・改善が必要な事柄」にまとめている。挙げられた課題は「具体的な対応」として、現状や今後の実践予定を記載しており、職員にとっては今後の取り組むべき内容が非常にわかりやすく感じられ、具体的な実践の道しるべとなっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者の高齢化や利用率の低下など混在する運営課題に対応するため、実現性を見据えた中長期事業計画の作成が期待される
	内容	事業所が抱える課題は、利用者の高齢化と利用率の低下、生産活動の減少と工賃減の予測、建物の老朽化など中長期的な課題が複数混在している状況である。また利用者の高齢化と共に同居する家族が更に高齢となっており、利用者自身が家族の介護を担うケースが増え、事業所が生活状況を把握しきれないまま危機的な状況に陥るケースも生じている。将来的には生活介護と就労継続支援B型の多機能型事業の開始を検討しているが、現在の職員不足に加え、上記の課題への対応も差し迫った状況といえるため、実現性を見据えた中長期事業計画の作成が期待される。
2	タイトル	年度の取り組むべき課題と具体的方法をまとめ、実践に取り組んでいるが、進捗状況の確認に遅れが出ているため、その実施に期待される
	内容	事業所では年度毎に取り組む課題を「事業課題一覧」にまとめ、「具体的な対応」として活動内容を示し、職員周知を図っている。挙げられた課題は多岐に渡っているものの、多くの課題については実践的な取り組みが行われている。進捗状況は職員会議で半年ごとに確認し、内容の修正や状況に応じて新たな課題の策定を行うとしているが、現状では職員不足のため、日々の業務を優先せざるを得ず、遅れが出ている状況である。進捗確認は現状把握に加え、今後の方向性を示すとともに職員の共通認識の醸成にもつなげられるため、その実施に期待される。
3	タイトル	利用者の日々の様子について職員間で緊密な共有を図っているが、個々の支援目標を意識できるよう記録様式のさらなる工夫が期待される
	内容	日々の支援状況は支援日誌、業務日誌に記載しているほか、利用者のケース記録は情報共有システムを活用して全職員で共有し、毎月印刷して役職者が確認した上で個別ケース記録にしている。個人の情報は一冊のファイルに集約し、わかりやすくしている。毎日夕方の打ち合わせでは、1・2階のフロア別及び全職員が揃って利用者状況の報告・共有と活発な意見交換を行い、必要に応じて夕礼で対応案を共有している。事業所は、利用者支援に直結する記録の整備を課題としており、ケース記録に個別の支援目標を印字するなど記録様式の工夫が期待される。